

医療法人 塚原医院

病診連携の大切さ。

インタビュー

「かけはし」では、地域の先生方にインタビューをさせていただき地域医療に関わるお話やお知らせをお届けしたいと思います。今回は塚原医院 院長 塚原先生にお願いしました。



つかはら すみお
塚原 純雄 院長

当院との医療連携について期待されることはどのような事ですか？

那須町は郡市医師会の中で一番県北に位置しております。ですから、この地域から医療連携を図るには距離的なもの、交通手段などを考え、国際医療福祉大学病院、那須赤十字病院、菅間記念病院、は勿論のことですが、隣の福島県の白河厚生総合病院、白河病院などにも紹介することがあります。私の場合専門が麻酔科であり、月曜日は菅間記念病院、水曜日は那須赤十字病院の手術室で麻酔のお手伝いをさせていただいておりますので、一部の先生方とは連携が取れておりますが、国際医療福祉大学病院の外科部長の鈴木裕先生、腎泌尿器外科部長の内田克紀先生、脳神経外科部長の橋本雅章先生とも上手く連携が取れており大変やり易い上に、今回24時間体制で循環器内科救急ホットラインが充実するようになり大変助かっております。ただ当院では訪問診療もおこなっており、常に訪問看護師さんと連携をとり動いておりますが、現在県北地域では訪問看護ステーションが少なく訪問看護師さんは疲弊している状態と思われま。できましたら国際医療福祉大学病院が我々の在宅療養支援病院となりバックアップ病院になっていただき、訪問看護も協力していただければ助かります。

ご自分のクリニックで力を入れていることを教えてください。

先程話しました様に、専門が麻酔科ですので主に痛みの治療を中心に外来診療を行っております。腰痛、肩痛、肩こり、膝痛、顔面神経麻痺などの治療に、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、肩甲上神経ブロック、トリガーポイント注、鎮痛剤その他補助剤を使いながら行っております。麻酔は周術期を観察しますので広く浅くですが、循環器、呼吸器、代謝等に関係しており内科も診ております。また、往診、訪問診療も行っており緩和ケア、がん患者などのターミナルケア、看取りも行っております。

ご自分のストレス解消法を教えてください。

家族とちょっと贅沢な食事に行くこと。それからもともと運動、特にボール運動が好きで学生時代はサッカーをしており高校から換算しますと9年間ゴールキーパーをしていました。そんな関係で今年小学6年になる息子がやはりサッカーをしているのですが、日曜日など自分の時間が空いた時には観戦しております。また、開業してから本格的にゴルフを始め一時は年間50ラウンドをしたこともありましたが、でも今は嗜む程度になってしましましたが、これらがストレス解消かなと思います。



最後に地域の方々、患者さんへ一言 お願いします。

一番重要と思っていることは体を動かすことと、食事に気を付けることこの二つが生活習慣病、ロコモティブシンドロームといわれている老人性の筋力低下を防ぐ予防医学になり自分自身の健康管理がとても大切だと思います。それから、私の仕事の一つには、できるだけ早く専門機関で治療しなければならない疾患を見つける事だと思いますので、早めに来院して貰いたいです。

【基本情報】



病院長	塚原 純雄	診療科目	麻酔科、整形外科 内科、放射線科
住所	那須町寺子丙1-397	休診日	月・水・日・祝日
電話	0287-72-0230		

2016/4/21 国際医療福祉大学病院
発刊：地域医療連携室

国際医療福祉大学病院
～連携通信～

第6号



新年度を迎えて



病院長
ももい まりこ
桃井 眞里子

平成28年度の初頭にあたり、地域医療にご尽力されておられる地域医療福祉機関の皆様、並びに地域住民の皆様にご挨拶申し上げます。昨年度は、より多くの救急患者さんに対応し当院の使命の一つを果たすべく当直体制を手厚くし、救急車の応需率も増加いたしました。一方で、救急応需の増加は病床利用率の増加となり、満床の日も散見されるようになり、救急入院に応じられないというジレンマを抱えました。このため、病状が安定された患者さんが安心して転院や退院ができるように、入院早期から多職種で退院の目標を患者さんやご家族と共に考えていく退院支援システムを強化いたしました。結果として、病床利用率は上昇しても満床での救急車お断りは逆に減少し、より多くの医療ニーズにお応えできる体制になってきました。

専門診療の充実も本院の使命です。昨年度は、内科系は、肝臓専門医による肝炎診療、消化器センター、糖尿病・内分泌専門診療等の充実や、24時間/365日循環器救急診療の開始、などがあり、外科系はロボット支援手術による泌尿器外科手術100例到達、心臓外科手術100例到達、など各科の専門診療を一層充実させることができました。

予防医学センターもご利用いただく数が増加しており、この広域の地域の皆様のために関係者一同、より満足していただける検診システムをご提供してまいります。

皆様に支えられてこそ職員の志と努力も報われますが、医師会を中心とする医療界とは、「国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク」が発足し、西那須野塩原地区医師会長の鈴木明裕先生に会長にご就任いただくことができました。今後多くの皆様のご参画をいただき、皆様との連携の中で最適の医療福祉の提供のために一層の努力を傾注してまいります。

また、地域経済界からは地域の商工会議所、商工会の会長を始め有志の皆様が、地域で頑張る病院を応援してやろうと「国際医療福祉大学病院後援会」を3月に設立してくださいました。大変有難い事で期待にお応えする一層の力をいただいた思いです。

皆様からは応援とともに忌憚なきご意見やご批判をいただき、より安心でより質の高い医療の提供を一同、志も新たに新年度をスタートいたしました。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

開催日：平成28年5月30日 18時30分より

内容：国際医療福祉大学病院 地域医療福祉ネットワーク 第1回連携医総会

国際医療福祉大学病院 地域医療連携懇談会

場所：国際医療福祉大学病院 B棟4階・5階

※ご案内状は別途ご郵送させていただきます。



地域医療連携室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

医療相談室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

休診日・夜間等の救急紹介の場合は、0287-37-2221（代表）から担当医師に取り次ぎます。

地域医療連携室ホームページ URL：<http://hospital.iuhw.ac.jp/cooperation/index.html>

那須塩原市の取り組み

みなさんの元気を支える「地域包括支援センター」

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように支援を行う総合相談窓口です。相談には、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師などの専門職が連携して、総合的な支援を行います。

地域包括支援センターではこんな業務をしています。

高齢者の権利や財産を守ります（権利擁護）

高齢者の方が安心していきいきと暮らすために、高齢者の権利を守ります。必要に応じて成年後見制度などの手続きの支援、虐待などへの対応、消費者被害の早期発見・防止等の問題に、他の専門機関とも連携しながら対応します。



地域包括支援センターとちのみ

地域の皆様とともに、住み良いまちづくりをすすめてまいりたいと思いますので宜しくお願い致します。

担当地区：西那須野東部地区（旧国道400号の東側）

西栄町 東町 下永田1丁目 千本松 北赤田 東赤田 三島1丁目 三島4丁目

東三島 南郷屋 睦 新南 高柳 西富山 井口 西遅沢 東遅沢 関根 東関根

槻沢 石林 五軒町の一部 西朝日町の一部 上赤田の一部 南赤田の一部 三島5丁目の一部



遠藤看護師 上新主任介護支援専門員 山越社会福祉士

〈連絡先〉地域包括支援センターとちのみ
〒329-2763 那須塩原市井口533-11
Tel 0287-37-1683
〈営業日〉月～土 8:30～17:30
<http://hoyukai.uhw.ac.jp/tochinomisou>

地域包括支援センターさちの森

地域包括支援センターさちの森は、那須脳神経外科病院に隣接した社会福祉法人那須四季会によって運営されており、鍋掛地区を担当しております。鍋掛地区は那須塩原市東部に位置する農村地域であり、新興住宅地に比し高齢化率が高い地域となっております。医療・介護サービス基盤は少ない状況にはありますが、古くからの集落が点在した歴史ある地域で、住民同士のつながりも深く、サロン活動も盛んな地域です。したがって、当センターもこうした地域の実情を十分考慮して地域の祭りや敬老会等を通し地域の方々のご協力を得ながら日々活動をさせていただいております。



左から 小野主任介護支援専門員 渡邊保健師

〈連絡先〉
地域包括支援センターさちの森
那須塩原市野間453-23
☎0287-60-1333（包括直通）
営業日：月～金：8:30～17:30
土日・祝祭日休み



生きがいサロンでの健康教室
自治会でのサロン活動も盛んです。



敬老会での健康体操
（北国の春体操がご当地体操となっております）

産婦人科よりお知らせ

産婦人科・遺伝外来（完全予約制）、無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）開始

産婦人科遺伝外来では、妊娠・出産に際して、赤ちゃんに伝わる可能性のあるさまざまな遺伝性疾患のご相談や、高齢妊娠などの遺伝カウンセリングにも積極的に対応いたします。遺伝外来の内容として

- 高齢妊娠では、赤ちゃんにどのような影響があるか知りたい
- 超音波検査で、胎児の染色体異常の可能性を指摘された
- 母体血清マーカーテストについて、どのような検査か知りたい
- 羊水穿刺による染色体検査を考えている
- 上のお子様染色体異常であったので不安だ
- 夫婦あるいは親族に遺伝性疾患があるので心配だ
- 妊娠中に薬剤を服用してしまった
- 妊娠に気付かず、レントゲン検査を受けてしまったが大丈夫か
- 不妊診療を行う上での遺伝医学的問題について知りたい などを。



産婦人科副部長
かきぬま としゆき
柿沼 敏行 医師

また、平成28年3月24日より、新型出生前検査（NIPT：母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査）の実施機関としての認定を受けました。NIPTは、母体血液中の胎児DNAを検査することで、妊娠早期に胎児の染色体異常の可能性を、母体や胎児を傷つけず行うことができる検査です。

対象となる妊婦さんは、妊娠10週以降で、高齢出産（分娩予定日に年齢が35歳以上）や染色体異常（13トリソミー、18トリソミー、21トリソミー）を有する児を妊娠をした既往がある、胎児が染色体異常を有する可能性を示唆されたなどです。現在は主に出生前検査についてのカウンセリングですが、今後は遺伝性乳がん、卵巣がんなどの疾患についての遺伝子検査治療が当院でも可能となります。

- 診療日 : 遺伝外来は完全予約制。診療日時は、毎週木曜日（祝祭日を除く）14:00～16:00
 - 予約方法 : 当院に電話（予約専用0287-38-2782）をいただき、「遺伝外来受診希望」とお伝えください。予約の受付は月曜日から金曜日（祝祭日は除く）の14:00～17:00です。
 - 費用 : 遺伝カウンセリング料 初診時 10,800円（1時間）、再診時 30分まで5,400円
 - 担当医 : 産婦人科副部長 柿沼 敏行
臨床遺伝専門医、産婦人科指導医、生殖医療専門医、日本周産期・新生児学会専門医、日本女性医学会専門医 他
- 詳細はホームページ <http://hospital.uhw.ac.jp/clinic/sanfujinka/index.html> にてご確認ください。

マイクロ波子宮内膜アブレーション（microwave endometrial ablation; MEA）

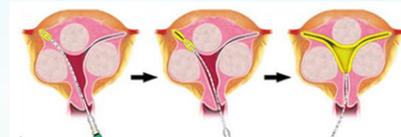
～過多月経に対する新しい低侵襲治療法～

マイクロ波子宮内膜アブレーション（MEA）とは、過多月経（月経時の出血が多すぎて、貧血や動悸、息切れ等の症状が出現し、日常生活に支障をきたす状態）に対する治療法です。子宮筋腫や子宮腺筋症など子宮そのものに病気がある方以外に、抗凝固薬（血液をサラサラにする薬剤）の内服や、はっきりした原因のない方も、過多月経があれば治療の対象になります。MEAは子宮内にサウンディングアブレーターを挿入し、先端から発するマイクロ波（電子レンジで使われている電磁波）で子宮内膜を焼灼することにより、月経量を減少させることを目的とした治療法です。

過多月経に対しては、止血剤や造血剤、あるいはホルモン治療等の薬剤の効果那不十分な場合は、従来から開腹や腹腔鏡下に子宮摘出術が行われております。一方、MEAは子宮摘出術の代替治療法として、体に負担をかけずに、数十分で安全に実施できる治療法です。当院では、麻酔は原則、全身麻酔（静脈麻酔）、2～3日の入院でMEAを行っており、退院後はすぐに日常生活に復帰することができます。2012年4月から保険が認められるようになり、患者様の負担が軽減されます。対象者は、薬物療法で効果がない方、子宮摘出術を希望されない方、または閉経までの間、過多月経のない生活を送りたい方などです。ただし、本法は子宮内膜を凝固しますので、妊娠を希望している方は対象外になります。また、異型子宮内膜増殖症、子宮内膜癌の方も、本治療では再発の危険性があるために対象外となります。さらに、子宮の大きさなどによりこの手術が適さない方もおりますので、担当医師に直接ご相談ください。



サウンディングアブレーター
（直径は4mmで子宮内腔までスムーズに挿入することができます）



子宮筋腫症例でのMEA施行時のイラスト
（子宮内膜（黄色の部分）がマイクロ波により凝固された部分です）